北海道・標津

知床しべつ町 人が織りなす感動体験

【知床の自然環境・産業・平和学習】

学ばなければならない「価値」がそこにある

世界自然遺産知床の南に位置する当地は、一衣帯水に北方領土の国後島を望み、左に秘境知床国立公園の山並み、右に野鳥の宝庫、野付道立自然公園、内陸はミルクの里の雄大な牧草地群が広がる酪農郷が形成されるなど、地勢的にも海、山、川、大平原を備えたリトル北海道とも称される町であります。

これら豊かな自然環境のもと、国内屈指の漁獲を誇る秋鮭などの漁業資源や、広大な牧草地で2万頭以上の乳牛により牛乳を出荷する酪農業の基幹産業を活用した体験プログラムを中心に地域の人々が関わる豊富な交流体験プログラムで受け入れを行っております。

【食への理解を深める】

国内初となる食の安全・安心供給システム水産業における「地域ハサップ」生産活動をプログラム化し、学習素材として提供しています。高度な衛生管理で取り扱う「ハサップ手法」は、食の安全が問われる昨今、国内的にも注目を浴びている取り組みで、当地では、イクラや新巻鮭作り体験、ホタテ貝の貝剥き体験などを通し、学びを深めていただいております。

酪農王国である釧根地域では、連携による民泊の受け入れにより、農業の誇りや労働の大変さを学び、共に汗し収穫の喜びを共有する活動を展開しています。

生産の苦労から命を育む食の有難さ、農業の重要さが理解できたと大きな反響が寄せられています。

【平和学習　北方領土を考える】

終戦の後、旧ソ連軍が千島列島を侵攻し、北海道間近までやってきたこと、そしてそこに暮らす日本人全てが郷里を追われた史実については、あまり知られていないのが国内的な状況です。そして、島に暮らした元島民の高齢化に伴い、その真実を直接聞くチャンスも年々難しくなってきております。国際情勢が混沌とする中、今一度若い世代に、平和を考える機会と素材は、日本の領土が近くに見える当地ならではの平和学習プログラムです。

【交流が育むプログラム】

標津町では、自然、産業、歴史、平和を題材とした「エコツーリズム交流」事業を展開しています。

来訪者からは、北海道らしい体験プログラムが充実しているとの評価をいただき、遠くは京都、大阪、東京、滋賀、神奈川など全国各地から修学旅行の皆さんを受け入れ、地元住民との交流活動が行われています。

【受け入れ対応】

受け入れの対応は地域の各分野の名人が事前に安全対策などを学びインストラクターの認定を受けた方々が中心となり体験活動が行われます。

また地域柄、大規模な宿泊施設がないなど不利な点もありましたが、小さな宿ならではのもてなしを目指し、心のこもった地場産品活用メニューや体験交流食、アットホームな雰囲気づくりなど、生徒の皆さんや先生たちにも「田舎の親戚の所に来たみたい」と大変喜ばれております。

以上の提案から受け入れまで町エコ・ツーリズム交流推進協議会が責任をもって対応しております。

酪農王国で本場の酪農体験

食への理解を深める新巻鮭作り体験

郷土料理チャンチャン焼き

平和学習で北方領土を考える

北方領土・国後島の沿岸風景

標津町エコ・ツーリズム交流推進協議会
〒086-1632北海道標津町北2条西1丁目1番3号
TEL 0153-82-2131　FAX 0153-82-1787
E-mail:kankou@shibetsutown.jp

岩手県・久慈市

いわて くじし こころの体験

白樺ゆれる 琥珀の大地 海女の国でこころの交流を

久慈市は岩手県の北東部に位置し、西は日本一の白樺林や豊かなブナ林が連なり、そこから流れる清水は、リアス式海岸を形成する太平洋に注ぎ、美しい景色を魅せるとともに、おいしい海の幸を育てています。広大な海と自然豊かな山々、日本短角牛、豊かな伝統食文化、木炭生産、心の通う民泊など、豊かな自然環境と素朴な生活文化、温かな人々のいる久慈市は、山、里、海の全ての体験を堪能できます。

また、豊かなフィールドと人情味のある指導者のもとでの体験は安心して心を開く環境を作っており仲間を尊重し、自己を見つめ、感じたことを素直に表現し合うことができます。こうして新しい自分に気づき、豊かな心を育て、そしてきっと忘れられない体験になることでしょう。

琥珀採掘体験

久慈では恐竜が生息していた時代の樹木から出た樹脂が地中に埋もれて、数千万年の時を経て化石化した「琥珀」が採れます。世界的にも古い琥珀が採取される久慈市では、日本で唯一の琥珀の専門博物館があり、琥珀石が発掘されることもある白亜紀の地層から、自分の手で琥珀を発掘する「琥珀採掘体験」です。久慈市ならではの体験で、かけがえのない思い出を作りませんか。

民泊体験

緑に囲まれたのどかな農村や、潮の音が聞こえる漁村で数人のグループで田舎暮らしを体験する民泊体験ができます。時間の流れがゆっくりと感じられる農山漁村で、地元の方と交流し、さまざまな文化に触れ、忘れることのできない体験が待っています。（受け入れ人数＝4～300人）

郷土料理体験

岩手県民は昔からさまざまな雑穀文化を発展させてきました。久慈市ならではの食文化に触れ、地産地消の貴重な食事を味わえるのが、久慈市の郷土料理体験です。「あまちゃん」で人気を博した郷土料理「まめぶ」作りができるまでの流れや、琥珀が人々の生活にどのように関わってきたのかを学べます。その中でもお勧めなのが、恐竜の化石が発掘される白亜紀の地層から、自然の雄大さを感じる「琥珀採掘体験」です。

総延長6300㍍に及ぶ鍾乳洞の内間木洞窟探検。珍しいコウモリにも会えるかも

渓流を遡行するシャワークライミング

体験は地元のお母さんが丁寧に教えてくれる人気のプログラムです。

漁師体験

小型漁船に乗船し、「カゴ漁」「刺網漁」を体験します。地元漁師の指導のもと船上から漁の様子を観察し、捕獲した魚は実際にさばくこともできます。

シャワークライミング

指導者のもとで、渓流を歩行で上流へと登っていきます。渓流は淵や瀬、滝などの変化に富んでおり、予測できない環境の中を流れに逆らってゴールを目指すうちに、協力することの大切さを感じられます。

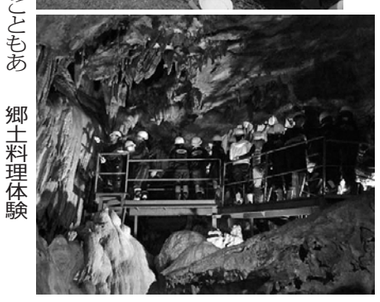
心の通う民泊で田舎暮らし

民泊先での料理体験

漁船に乗って漁師体験

渓流を遡行するシャワークライミング

白亜紀の地層から琥珀発掘



ふるさと体験学習協会
担当者　高橋昭治
営業時間　8：30～17：15
〒028-8030 岩手県久慈市川崎町1-1
久慈市役所交流促進課内
TEL 0194-75-3005　FAX 0194-75-3007
URL:www.kuji-taiken.jp/

本物の体験交流が育む

岩手県・三陸海岸

大震災体験の伝承・復興への歩み・生き抜く力

被災地だから「私たちには伝えなければならない責任」があります

岩手県田野畑村は、三陸復興国立公園の北部に位置し「日本一の海岸美」と称される「北山崎」など恵まれた景観の中に住民が漁業や酪農を営む、人口4千人弱の典型的な農山漁村です。

2011年3月11日に村を襲った大津波では38人の死者行方不明者を出し、住み慣れた家、船や漁港施設、駅や学校など目の前から全てを奪い去りました。しかし、人的な被害が比較的少なかったのは、明治や昭和の大津波から語り継がれた教訓、そして日常の防災への意識や訓練によるものであり、これから先も伝承されていくことでしょう。

この地を訪れる学校の生徒にとって、悲しみや仮設住宅などでの不便な暮らしと向き合いながら生業の再興や復興へと歩む住民のたくましいこの姿は、どのように映り、何を感じ取り、いかに考えさせていくのでしょうか。

生徒自らが「生きる力」を身に付ける必要性を悟り、他の人間と「心の絆」でつながることの大切さについて考え、農山漁村の真の豊かさを五感で感じられる学びの場所が今ここにあります。

組織と教育訓練

「体験村・たのはたネットワーク」が受け入れコーディネート組織として各種手続きや手配のワンストップ化を図り、田野畑村役場が後方支援をする官民一体の体制を整え、学校や旅行会社の目的や要望に迅速、柔軟に対応しています。また、各プログラムの指導者や民泊家庭は定期的な研修を行い、漁船プログラムについては海上保安庁などとの連携訓練によって安全確保に努めています。

民泊（ホームステイ）

被災後も漁家や農家を中心に85軒の受け入れ家庭があり、約300人の子どもたちと交流が可能です。

宿泊ホテルが復旧再開

350人の収容能力を持つ「ホテル羅賀荘」は12年11月に復旧リニューアルオープン。津波への新たな安全対策を講じるとともに、セレモニーや屋内活動多目的な活用が可能な交流センターもホテルに隣接整備されました。宿を出るとすぐに体験現場という絶好のロケーションにあり、効率的なプログラムを組むことができます。

サッパ船アドベンチャーズ

津波被災から即座に復興を果たし、今や地域観光の復興の大きな牽引力として注目されます。漁に使う小型漁船（サッパ船）に乗り、断崖直下や岩礁の間を縫うように航行する漁師の勇姿に気迫を感じます。洋上や漁港での体験は、漁業の厳しさや漁師の知恵を伝えます。

郷土料理体験

元気かあちゃんの指導のもと、地元海産物や農産物を生徒が自ら調理して味わいます。食の安全性や大切さに対する意識が高まります。

大津波体験ガイド＆語り部

大震災により被災し仮設住宅などで生活している住民自らが、津波の脅威、当時の記憶や行動、今に至るまでの体験、絆のありがたさなどについて現地を案内しながら語ります。宿での「語り部」やワークショップについても対応可能です。

人気のサッパ船で漁業体験

ホテル羅賀荘

民泊家庭での夕食作り

語り継ぐ責任を持って臨む「震災復興ガイド＆語り部」ガイド

体験村・たのはた教育旅行受入協議会
NPO法人 体験村・たのはたネットワーク
担当　楠田・武井
〒028-8402 岩手県下閉伊郡田野畑村北山129-10
北山崎ビジターセンター内
TEL 0194-37-1211　FAX 0194-33-3355
E-mail:taiken-tanohata@car.ocn.ne.jp
URL:http://www.tanohata-taiken.jp/

新潟県・上越市・十日町市

人を思う心、命の大切さ 生きる力…

越後田舎体験で学んでほしい

新潟県上越市・十日町市のこの地域は、折り重なる山々、小さな田や畑、広い平野、日本海などさまざまな日本の原風景があり、暮らしがあります。越後田舎体験では自然と自然のつながり、自然と人、人とのつながり、人とのつながりを大切に考え、そのさまざまなつながりを暮らしや体験、人との交流の中で、肌や心で感じてもらえるような受け入れを目指しています。

民泊・ホームステイ

私たち地域では民泊（ホームステイ）の受け入れを行っています。民家の方と過ごして体験、交流することで何か感じるものがあるようです。受け入れにご協力いただく多くはお年寄りですが、越後田舎体験で来ていただく子どもたちから元気をいただき、400軒以上の民家が「何かを伝えたい」と考え、受け入れています。

地元の人との交流

体験を通して、地元の方との交流にもお答えできます。

信濃川のラフティング

2013年度から、日本一の川「信濃川」でのラフティングが体験できるようになりました。激流がないので初心者向けで、周りの自然環境を観察しながら、安心安全に体験していただくことができます。

雪国体験

とにかく雪はたくさん降ります。3～4㍍の積雪のある地域での雪国体験です。雪をエネルギーとして利用している施設の見学も可能で、自然エネルギーの活用も学ぶことができます。

新潟・越後にぜひ、一度お越しください。ご案内いたします。

越後田舎体験の特徴
①日本海の長い海岸線と、米どころ新潟の広い平野、そして棚田やブナ林がある日本の原風景が残る中山間部を持つ越後田舎体験のエリアは、自然・環境・歴史民俗学習の適地です。
②あらゆる体験プログラムは土地の人がインストラクターとしてかかわります。
③企画コーディネート（手配、連絡、調整、精算）は協議会事務局で承ります。
④広域で仲間が連携、協力して受け入れを行います。

漁業体験では魚をさばき干物づくりにチャレンジ

民家でじゃがいも掘り

日本一の信濃川でラフティング

米どころ新潟で田植え

春山トレッキング

越後田舎体験推進協議会
通常営業時間　8：30～17：30（月～金、祭日・年末年始等休み）＊時間外でも電話してみてください
〒942-0411 新潟県上越市安塚区安塚722-3
雪だるま財団内
TEL 025-592-3988　FAX 025-592-3324
E-mail taiken@yukidaruma.or.jp
http://www.echigo-inakataiken.jp/